

自然界に四季があるように、

人にも四つの季節があるとい
う。青春、朱夏、白秋、厳冬（玄
冬）である。青春は字の如く踊
るような若い春である。朝、目
が覚めると自分の中に他人を感
じるぐらいに一晚で成長してい
る。人が、それぞれに自分の向
き不向きを知るのが青春なのか
もしれない。

わたしは数学が苦手だった。
因数分解ができない。野球をや
ってはいたが、とても甲子園を

目指す腕前ではないことはわか
っていた。国語は好きだったし、
歴史や作文も好きだった。国語
の女の先生が好きだったせいも
ある。

人生は好きな先生や師匠に出
会うか出会わないかで大きく変

人にも四つの季節

わるのかもかもしれない。すし店に

弟子入りした人は主人の包丁さ
ばきを見て学ぶそうである。味
付けも舌で学ぶそうである。ど
の職人の世界でも同じようであ
る。人柄を学ぶ。演劇界もそう
である。

青春が過ぎると朱夏である。
厳しく激しい暑い朱色の夏であ

る。人は一人であることを朱夏
に学び、精進しながらも傷つく。
知らず知らず人にも傷をつけて

いる。裏切りや裏切られがあり、
闘争と挫折がある。ここにこと
笑いながらしなければならな
い、難しい闘争と挫折と裏切り

知る季節といえるのかもしまし
ない。いろいろな人との別離があ
る。

そして、厳冬を迎える。厳冬
は最も厳しい季節である。諦め
つつも、白秋までは生きるとい
うことを前提にして生きてき

た。厳冬は死をを考えて生きる。

そして、白秋となる。北原白
秋の白秋である。一人、孤独に
白湯を飲む季節である。諦めを
か。迷惑をかけずに死ぬにはど

う死ねばいいのか。墓はどうす
るか。

ある演劇評論家がわたしに
「これで演劇史に名前が残りま
すね」とお世辞をいった。歴史
に名を残そうとして生きている
人がいるのだろうか。生前に自
分の銅像や肖像画を造る人の話
も聞くが、そんなことでは歴史
に名は残らない。「わたしはこ
れだけの男である」。人生の韋
駄走りもできなかった証拠で
ある。

ただ、家に祖先の写真が飾っ
てあるのはいい風景である。そ
れは、学校の校長室にも見える。

わたしの人生も、そろそろ厳冬
へ入ろうとしているのかもしまし
ない。男の平均寿命が80歳にな
ったそうである。（松浦市出身）



おかべ・こうだい 1979年に
「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、
89年に「一重也子」で紀伊國屋演劇賞個
人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。
松浦市で毎年、子供たちにミュージカ
ルを指導している。川崎市在住。70歳。